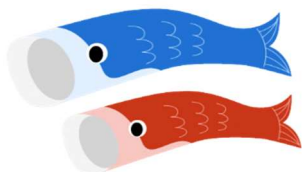


大隈重信記念館だより



第33号 令和3年5月13日発行
大隈重信記念館 佐賀市水ヶ江 2-11-11
TEL・FAX:0952-23-2891
<http://www.okuma-museum.jp>



令和3年度がスタートしました。新型コロナウイルスの猛威はいまだ続いており、様々なイベントや企画が、中止や、規模縮小などの対応を余儀なくされております。大隈重信記念館では、感染症対策を十分に講じながら、お客様に安心して楽しんでいただけるよう工夫をしながら日々考え対応をしていきますので、今後ともよろしくお願いたします。

「東西文明の調和」を表現した柱

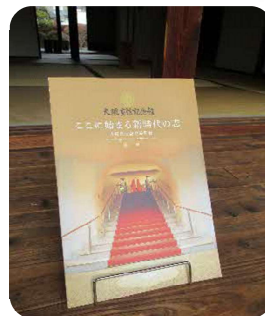
今年発行された図録「ここに始まる新時代の志」の表紙には、記念館ホールの赤絨毯の階段が写っています。階段の東西を結ぶ柱はアーチを描くように繋がっているのですが、これは大隈の理想、「東西文明の調和・統一」を表現したものです。

世界の文明を東洋文明と西洋文明に分け、双方の文明が日本において合流し、調和すべきだという考え方です。大隈はその調和こそが文明の均整をもたらし、世界に真の平和をもたらすと考えていました。



『東西文明之調和』

大隈重信遺著 大正12(1923)年1月
大隈の理想「東西文明の調和・統一」をテーマにした討論をまとめたもの。大隈の死によって中断したため未完の遺著として刊行された。 大隈重信記念館蔵



新刊 大隈重信記念館図録

『ここに始まる新時代の志』

大好評発売中！！記念館受付でお買い求めください！！

1000円(税込)

たびたび風刺画になっている大隈さん



団団珍聞 234号 明治14(1881)年10月22日(国立国会図書館蔵)

団団珍聞 225号 明治14(1881)年8月20日(国立国会図書館蔵)



その時の社会や人物、政治的事件を皮肉ったり、批判する手段として用いられてきた風刺画ですが、大隈が取り上げられたものもあります。

明治14年、北海道の開拓長官・黒田清隆が開拓使官有物を民間会社に破格の安値で売り渡そうとしていたことが明るみになり、政府は民衆から激しく批判されました。左の画は、大八車に乗ったタコ(黒田清隆)と車夫(五代友厚)が描かれ、右の画はそのタコを阻止しようとクマ(大隈重信)が相撲をとっています。この対立の後、大隈は罷免されました。ただ今記念館の二階でも展示をしておりますので、是非詳しくご覧ください♪

大隈重信記念館

検索

